

中国・四国ブロック

1. プログラム詳細

【日程】

<1日目>

13:30～13:50	(20)	開会 ・主催者挨拶:内閣府 大臣官房審議官 福田 正信 ・来賓挨拶 : 高知県 文化生活スポーツ部長 橋口 欣二 ・講師、コーディネータ紹介
13:50～15:00	(70)	講演 「動機付けと交通安全活動」 講師 自由学園最高学部 講師 溝端 光雄
15:00～15:10	(10)	休憩
15:10～16:20	(70)	講演 「自転車の交通安全」 講師 日本交通安全教育普及協会 主幹 石井 征之
16:20～16:30	(10)	休憩
16:30～16:55	(25)	グループ別交流 (グループ討議での役割分担等)
16:55～17:00	(5)	事務連絡

<2日目>

8:30～9:00	(30)	受付
9:00～10:50	(110)	グループ別討議 子どもに対する交通安全活動における課題と対応 高齢者に対する交通安全活動における課題と対応 自転車に対する交通安全活動における課題と対応 家庭と地域の交通安全活動における課題と対応
10:50～11:00	(10)	休憩
11:00～11:40	(40)	討議結果発表(4グループ)・質疑応答
11:40～11:55	(15)	講評(コーディネーター 石井 征之先生))
11:55～12:00	(5)	主催者からの連絡事項 : 内閣府
12:00		閉会

2 . 講義等の記録

【1日目】

講演

「動機付けと交通安全活動」

自由学園 最高学部 講師 溝端 光雄

104ページの東海・北陸ブロックでの講演録参照

講演

「自転車の事故防止のために」

日本交通安全教育普及協会 主幹 石井 征之

111ページの東海・北陸ブロックでの講演録参照

【2日目】

グループ討議の結果

グループ名	グループ 子どもに対する交通安全活動における課題と対応
討議テーマ	交通事故から子どもの命を守るためには
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新入学児童対象に安全教室を開催（腹話術・スタントマン） ・朝の見守り（信号の渡り方やあいさつ運動など） ・ドライバーへ啓発物品の配布（子どもからドライバーへ） ・着ぐるみ、紙芝居、交通安全の歌（「もしもしかめよ」の替え歌）
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によっては挨拶しても反応なし（中学生は口答えする） やはり「交通安全は家庭から」地域から意識を持って！ ・集団登校の方法。取り残されないようにする
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会を利用して交通安全の寸劇を毎年実施 子ども、親、地域を巻き込む。母の会、安協、警察、老人会、PTA等が参加 ・良い習慣付け（右みて 左みて また右みて）

グループ名	グループ 高齢者に対する交通安全活動における課題と対応
討議テーマ	歩行中の交通安全 運転中の交通安全
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・街頭啓発、反射材等の配布（その場で付けさせる） ・サロン等に出向き高齢者に呼びかけ ・家庭訪問し交通安全の呼びかけ ・カーブミラーの清掃等（交通安全設備の整備） ・高齢者対象の交通安全研修
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・県民性や様々な環境により交通安全意識の差がある ・免許返納後の生活が難しい（特に地方） ・加齢による運動能力の低下に自覚がない ・交通安全意識が低い方への対策が難しい
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・呼びかけの継続 ・運動能力低下を実際に体験してもらう ・強いことばも必要（自分の命は自分で守れ） ・返納せずに意識を変えてもらう

グループ名	グループ 自転車に対する交通安全活動における課題と対応
討議テーマ	自転車運転者へいかにヘルメットを着用させるか
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童や生徒にはある程度道筋がついている ・ 指導員が個別に声かけしている ・ 県単位で努力義務を課しているところがほとんど
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童や生徒の通学以外のヘルメット着用 ・ 一般の方へのヘルメット着用 ・ ヘルメット着用の重要性の伝え方
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは家庭や自治体からの着用（親が着用すれば周囲が着用するのでは） ・ 自動車保険と同じ様にヘルメット着用の法律化 ・ 自転車車検の義務化

グループ名	グループ 家庭と地域の交通安全活動における課題と対応
討議テーマ	家庭と地域と交通安全活動
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者宅への訪問の際、子どもも一緒に訪問 命を守るための素晴らしい活動なので継続した安全教育が大切
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域により「中山間地」という場所がある。そこでの活動をどのように続けたら良いか
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「中山間地」へは男性と一緒に活動する ・ 地域活動を理解してもらうため行政（県や市町村）との懇談会を開催する ・ 移住者との壁を作らないよう一緒に活動する ・ 特定地域内での限定免許は実際の日常生活の状況では難しい 家庭でしっかりと話し合いを！

皆さん、大変お疲れさまでした。2日間の講評をさせていただきたいと思います。初めに溝端先生から高齢者についての講義がありました。「気づき」について、それから、高齢者を指導する場合は身体的なこと、年齢的なこと、そういう点を気づかせながら指導することが大切なのだというお話があったと思います。

それから、私の自転車についての講義ですが、この場をお借りし少し補足しますけれど、私が以前、医学部の大学教授と話をした時、こんな話を聞きました。将来、医者になりたいくて、小さい頃から猛勉強して大学の医学部に入学した男子学生がいたそうです。その学生は一生懸命授業に出て勉強していたそうです。ところが10月になって突然、その学生の姿が授業で見えなくなったそうなのです。教授はなぜだろうと思って他の学生に尋ねたところ、夏休みに友達と一緒にドライブに行っていて人身死亡事故を起こしてしまい、大学を退学したということなのです。要するに、今後勉強しても医師免許が取得できないのです。

皆さん、自転車事故でも同じです。決して軽く見てはいけません。自転車による人身事故であっても場合によっては将来の自分の夢が崩れてしまうのです。この点を日ごろの皆さんの活動の中にぜひ組み込んでいただければなと思います。

そして本日はグループ討議がありました。グループの「子ども」では「声かけ」という非常に重要なワードが出ていました。これはとても大切なことですね。私は、特に子どもでは目線の位置ですね。皆さんもその点は十分に理解されているとっておりますが、子どもの目線は大人よりも低い、だから見え方が違う。

グループの「高齢者」ですが、免許返納というお話がありました。実は私の父ですけれども90歳から92歳までの2年間は病院に入院し、最後92歳で亡くなりました。亡くなってから2週間ぐらい後に、私の自宅にコロナという昔の古い自動車がやってきました。

車から降りてきた方が仙人みたいな方で、背筋がきちんとして、痩せているのです。今までは全く来たことがない人でした。その方が「ここは石井三郎さんのお宅ですか？ 実は大学時代に4年間バスケットで三郎さんと一緒に活動していました。線香を上げさせてください」と、こういう話だったのです。上がっていただき仏壇へご案内しました。そしてその方は仏壇の前に座り、朗々と大きな声でお経を唱え、終わったと同時にそのまま帰っていかれました。その方も92歳なのです。その時に思ったのは、人間の年齢は個人差が非常にあるということ。免許返納の難しさもそこにもあるのだらうと思うのです。免許の返納をうまくやるには、コミュニティバスやタクシーなどを上手に活用し、細かくサポートしていく。支援する体制ができないと免許返納は少し難しいですね。

例えばタクシーチケットなども場合によっては1年で切れてしまう。そうではなくて、確か北陸の県だったと思いますが本人が亡くなるまでコミュニティバスの無料券を配布していると聞きました。そういったサポートをどのようにやるか、これは大きな問題ですね。

それから、グループは「自転車」がテーマでしたね。他県の事例としてある県では自転車通勤の県庁職員は必ずヘルメットを着用すると議会で決めた県もあったようです。県民に率先して行動するのは非常に大切なことですが大変なことですね。例えば愛媛県では自転車通学の高校生はヘルメットを必ず着用することになっています。この取り組みは全国でも本当に褒めてあげたい事例だと思います。現在でも着用率が95%だそうで本当にすばらしい取り組みだと思います。私もぜひ愛媛県に行ってヘルメットをかぶって登校してくる生徒たちを高校の前で見たいなと思うのですが、残念ながらまだその機会はありません。このようなすばらしい取り組みもあります。ヘルメット対策は非常に難しい問題ですが、積極的に取り組む姿勢というのは忘れてはいけません。なぜならば、大事な頭を守るという最も大切な効果があるということが言えるからなのです。

そしてグループの「家庭と地域」です。結局、行政や他団体など、いろいろな方々と連携して進めていくことが必要なのではないかと思います。そしてもう1つ大事なことは母の会の活動を積極的に行政や地域にアピールしていくことが必要ではないかなと思いました。広島県での活動事例では芸能人を呼んで啓発活動を行っているという報告もありました。費用もかかるので大変難しいことですが、かなり効果的ではありますね。

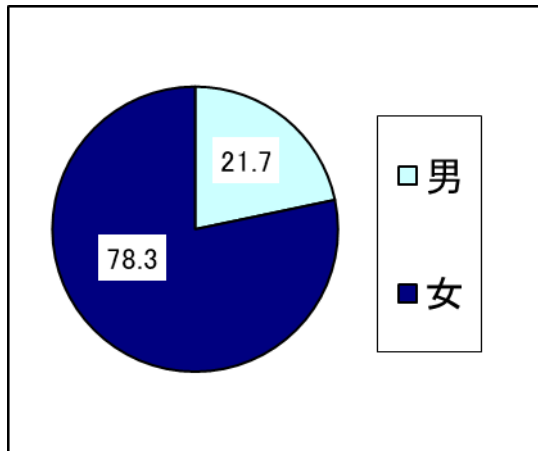
最後にまとめです。実は休憩時間に私のところへ愛媛県の方がこのお守りを持ってきてくれました。新入学児童全員に配布されているということです。ここに書いてある文章を読みますね。「このお守りは、皆さんが交通事故に遭わないように、お母さんやおばあさんが願いを込めてつくりました。交通ルールを守って交通事故に遭わないように気をつけましょう。道路に飛び出さない、道路で遊ばない、右左をよく見て渡ろう。交通安全母の会」と。このようになっていまして、子どもたちはみんなランドセルにつけているそうです。この文章は全部ひらがなで書いてあるので一年生にも読むことができますね。本当にすばらしい活動だなと思います。

まとめとして、最後に私が申し上げたいのは「交通安全は日常生活の中に常にある」ということです。常にその意識、雰囲気を持つこと、または持たせることが大切です。結局、家庭の問題もそうですけれども、例えば家のテレビやラジオで交通事故のニュースが報道される。その時、お母さんが「あらっ大変な事故が起きたのね」と一言言うだけで、そこにいる家族全員が「ああ、交通事故があったんだ。大変だ。自分も気をつけよう」と、そういう意識を持つことができる。だから日常生活の中に常に交通安全があるのだという意識がいかに醸成されるかということだと思のです。私も小さいころ、母親から「車に気をつけなさい」といつも言われて学校へ行っていました。その当時の母親の顔や声を今でもはっきり私の記憶の中に残っております。そして車に乗るようになってからは「運転には気をつけなさい」といつも言われていました。要するに、そういう日常の生活の中で交通安全の意識が常にあるという状況。これを皆さんの活動の中で、特にお母さんたちにいかに浸透させるかということが非常に大切な側面ではないかなと思いました。

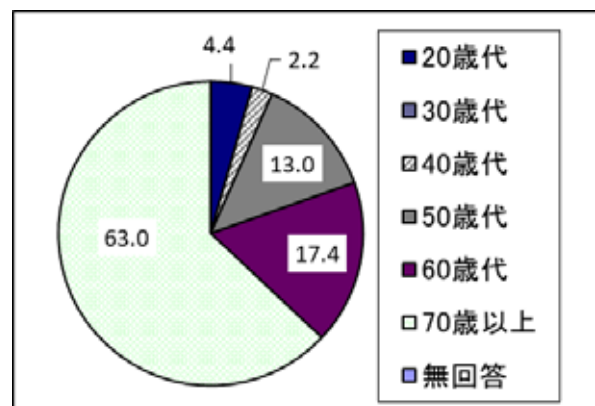
2日間、本当にお疲れさまでした。以上で私の講評を終わりにしたいと思います。本当にありがとうございました。

3. アンケート集計結果

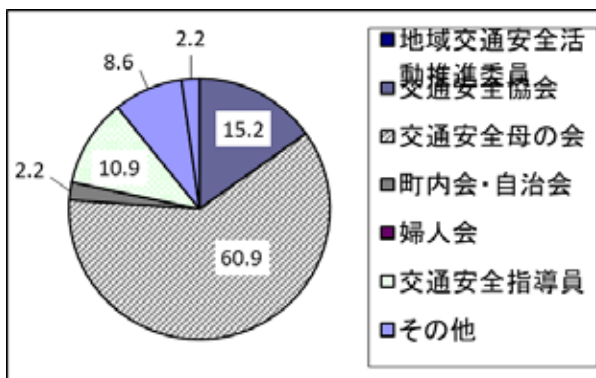
1. 性別



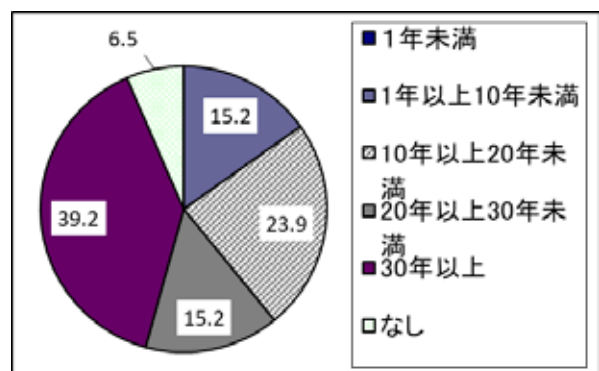
2. 年齢



3. 所属団体

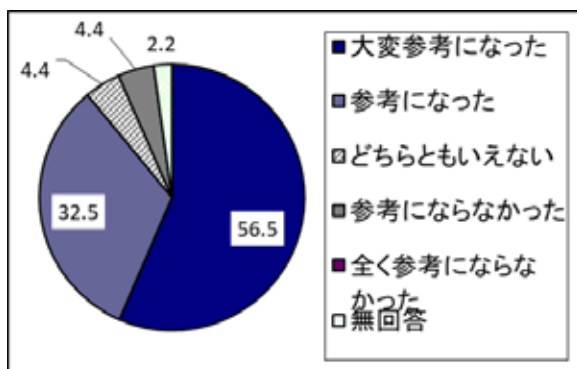


4. 活動年数

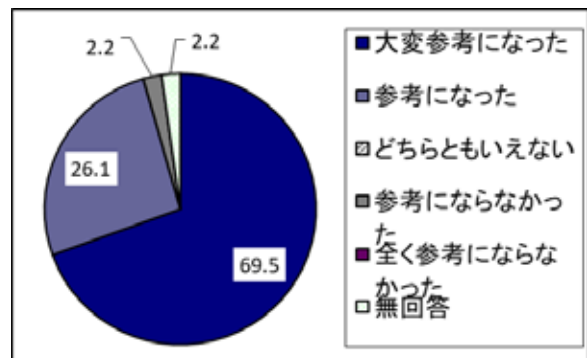


5. 評価

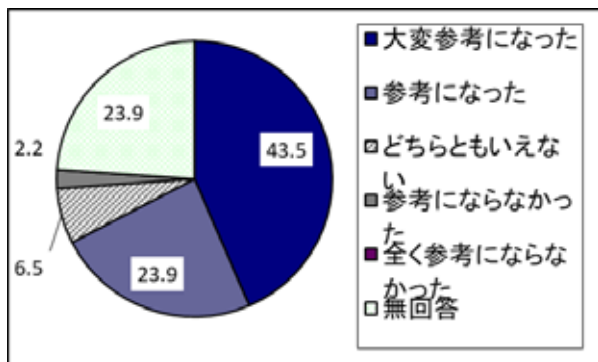
[講演 講師：溝端 光雄 先生]



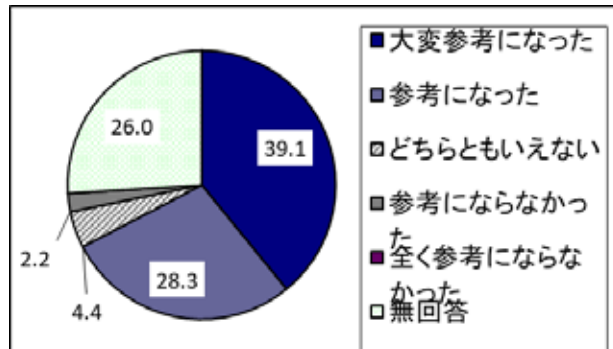
[講演 講師：石井 征之 先生]



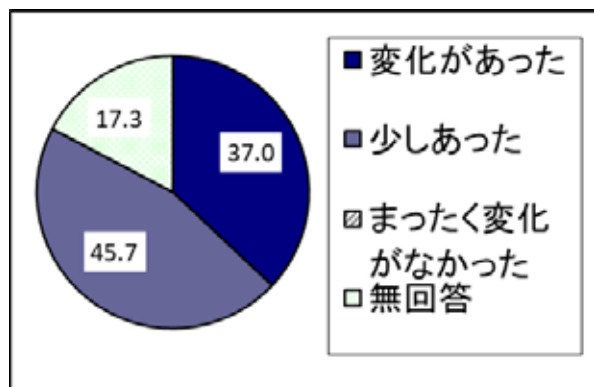
6. グループ討議



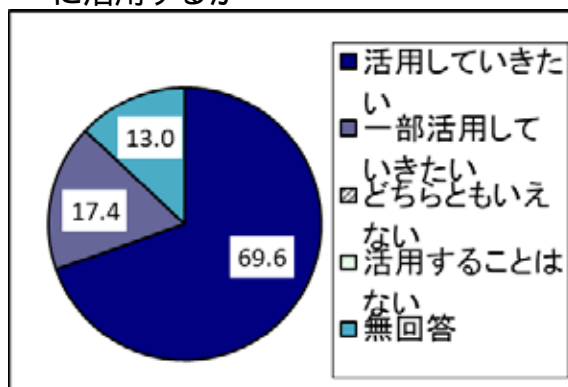
7. 総合評価



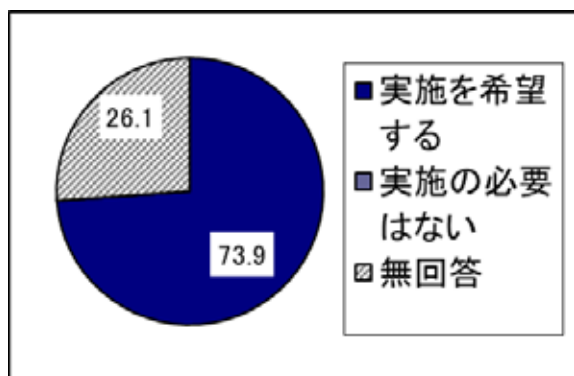
8. 講習会参加による意識の変化



9. 今回学んだ内容を、今後の交通安全活動に活用するか



10. 来年度の開催について



設問6. 今回の内容以外で取り上げて欲しいテーマや内容

- ・ 車社会での様々な規制による地域格差について
- ・ 信号機のない横断歩道や交差点でドライバーの「止まる意識」の向上について
- ・ ボランティア組織の高齢化
- ・ 母の会の全国組織の設立
- ・ 具体的な活動事例発表
- ・ 母の会への男性参加について各地区の実情を討議したい
- ・ 超高齢化が進んでいる地域での活動について

設問9. 交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるのはどのような機会か

- ・ 幼児、児童、高齢者対象とした地域での実践の場が必要(3)
- ・ 地元で繰り返し交通安全について話し合うことが大切だと思う
- ・ 地域住民に多く参加して欲しい
- ・ 相互の活動を実際に披露する機会(ビデオや写真など)
- ・ 各地で定期的な交通安全教室の実施
- ・ 地域コミュニティに参加し啓発活動を活発に行う
- ・ 若い方々の参加。日常生活の中で常に交通安全意識を持たせる
- ・ 条例やルールの徹底
- ・ 警察による道路交通法の解説
- ・ 指導員や安協と連携をした活動が望ましいと思う

設問10. 講師への質問・意見

溝端光雄先生

- ・ 参加者に質問を投げかけながら、面白くためになる講義だった(2)
- ・ データに基づいた、大変わかりやすいお話でした(2)
- ・ 「動機づけ」について自らが気づけば良いが相手に気づかせるためには認め、理解し、納得へと進める話は参考になった
- ・ 年齢を重ねるごとに視野や体に変化することも理解しながら活動したい
- ・ 高齢者の意識(プライドなど)が良く理解できた
- ・ 免許返納をしたくてもできない地域の事例があればお聞きしたい

石井征之先生

- ・ 自転車のルールをたくさん知ることができて大変勉強になった(4)
- ・ 最近では自転車マナーが悪く大変危険と感じていたが、今日学んだことを子ども達に話していきたい
- ・ 私自身、自転車に乗れないが内容が良く理解できました。子ども達に声がけをしていきたい
- ・ 教師目線でのお話が心に届きました。今後も子ども達を見守っていきたい

- ・ 具体的な事故事例のお話で感動しながら学ぶことができた
- ・ 活動の中で利用したいデータが多くあって良かった

設問 12. その他の意見・要望

- ・ 他地区の多くの方と情報交流できてとても良かった(6)
- ・ 大変勉強になった。今後の活動に役立てていきたい(3)
- ・ 会場が狭いため隣のグループの声で話が聞こえなかった。もっと広い会場を手配して欲しい(3)
- ・ 講習内容は良かった。グループ討議の時間はもっと長い方が良い。他県での取り組み内容が知りたかった
- ・ もう少し実技的な内容も希望
- ・ 高知県母の会の皆さまのおもてなしに感謝
- ・ 講師の先生が資料を全て説明できる時間を作って欲しい。また質疑応答の時間も欲しい

4 . 記録写真



開会挨拶（内閣府 福田審議官）



講演 溝端光雄先生



講演 石井征之先生



グループ討議



グループ討議発表



グループ討議発表